

TSUDA TODAY

No. 136

津田塾大学

March 2026



2025年度 卒業式式辞 生涯学び、広く社会に貢献を

学長 高橋 裕子

ご卒業おめでとうございます。2025年度は本学創立125周年をお祝いした記念すべき1年でもありました。皆様のご家族にも来校していただける卒業式を挙行できることをうれしく、ありがたく思っております。

皆さんが入学してからの4年間、世界を見渡すと分断と混迷はますます深まりました。ウクライナやガザなど各地で戦争や紛争が続く、地球温暖化による環境の変化や災害も大きな課題となっています。一方でAIの急速な発展により、社会のあり方が根底から変わる可能性も現実となりつつあります。新しい技術をどう生かしていくのか。世界の秩序やルールはどのように築いていくべきか。これから社会に出ていく皆さんにとっては、期待や希望とともに不安や恐れなどもあるのではないかと推察いたします。

卒業式の日、津田梅子が女子英学塾を創設する前、聴講生として学んだオックスフォード大学セントヒルダズカレッジのモットーについて考えてみたいと思います。モットーは、“I lived not in vain.”です。In vainは、「無駄に」「かいない」などネガティブな意味ですが、これをnotで否定すると、この文脈では自分の生涯は何か、誰かに役に立った、貢献した、意味があった、ということになります。いわば「社会に貢献できるような人生を全うした」という意味で、本学のモットー、「変革を担う、女性であること」に通じるものがあります。

津田梅子が卒業式で行ったスピーチをいくつも読んできましたが、多くに共通することは、学生たちが本学で学んだことを生かして行うであろう、これからの社会貢献に寄せる期待です。

例えば、1906年3月の卒業式式辞では、「本学で学んだ理想と教養を携えて、本学の教育が目指す目的をお一人おひとりがいざなわれる人生においてそれが何であれ、達成するようにと期待しています。……もし粘り強く頑張り、謙虚さを持って、自分が知っていることや正しいと感じることを実行していけば、どのような仕事に携わっていても、それが高いものであろうが、低いものであろうが、あなたの人生は気品のあるものになりますし、あなたが受けた教育



は意味のあるものになるのです」と梅子は述べています。最後の一文は英語では、“your life will be noble, and your education not in vain.”と綴られています。

この一文は、まさにセントヒルダズのモットーとも呼応しています。ここで受けた教育は、高潔で、品性のある生き方に繋がる。自分や自分の周りの狭い範囲の利益だけに関心を持つのではなく、より広い視野をもって、より多くの人びとに貢献するように、という趣旨だと思います。

皆さんはこの4年間で、幅広い教養と専門性を身につけたはずですが、それをどう生かすのか、誰のために、何のために使うのが、これから先の人生で問われます。また、その学びは、状況が思うように進まない時や、「正解」のない問いに向き合った時にこそ、力を発揮するものになるでしょう。

学びは卒業で完結するものではなく、これからも長く続きます。“Your Education not in vain.”というフレーズを胸に刻み、これからも生涯学び続け、広く他者と連なりながら、「変革を担う」女性として、気品ある人生を送っていただければ、と願っております。卒業後も例えば大学院に進学したり、留学したりすることも考えていただきたいと思います。実際、数々の卒業生が社会に出た後で、再度、国内外の大学院で学ばれ、活躍されています。

さて、卒業する前に、皆さんには必ず創立者の声を聞いていただいています。1913年の卒業式で、津田梅子が卒業生に送った言葉です。

人生は船で海を渡る航海のようなもので、卒業は荒波や暴風の試練に立ち向かう船の進水である。しかし、人生の航路には船が暗礁に乗り上げたりしないよう、安全な道を照らす「灯台」の灯りがあり、そのような灯りに目を見開いて、しっかりと受け止めるよう、津田梅子は語っています。その灯りとは「真実」と「愛」と「献身」です。「真摯に、そして惜しみ無く、社会に働きかけることのできる、有為な人になれ」「ここで学んだことを無駄にしてはいけない」という言葉もありました。

この先も、想定していなかった困難が皆さんの、そして世界の人たちの前に立ちだかることがあるでしょう。しかし、皆さんは“all-round women”として、困難に向き合い、乗り越え、果敢に社会に貢献していけるはずですが、この学び舎から自信と誇りを持って羽ばたき、前進していかれることを切に願っています。



2025年度 卒業・修了（終了）者数

<学部>

学芸学部	9月30日付	3月18日付	3月31日付	合計
英語英文学科	4	223	-	227
国際関係学科	2	204	-	206
多文化・国際協力学科	1	64	1	66
数学科	0	56	-	56
情報科学科	0	50	1	51
計	7	597	2	606
総合政策学部	9月30日付	3月18日付	3月31日付	合計
総合政策学科	2	131	-	133
計	2	131	-	133
学部合計	9	728	2	739

<大学院>

2026年3月16日時点

修士課程	9月30日付	3月18日付	3月31日付	備考
文学研究科	-	9	-	学士・修士5年プログラム1、英語教育実践研究4、現職教員プログラム1含む
理学研究科	1	8	-	2025年9月30日付 数学専攻1 2026年3月18日付 数学専攻5、 情報科学専攻3
国際関係学研究科	-	1	-	
計	1	18	-	
後期博士課程	9月30日付	3月18日付	3月31日付	備考
文学研究科	-	-	2	単位修得後退学2
理学研究科	-	1	-	数学専攻1
国際関係学研究科	-	-	-	
計	-	1	2	

※赤字部分は記載に誤りがあったため、2026/04/03に訂正いたしました。正確な数値への更新をもちまして、訂正とお詫びとさせていただきます。

2025年度 各賞受賞者

■ De Ford（ド・フォード）賞

フルブライト客員教授として本学で教鞭をとられた Sara de Ford（サラ・ド・フォード）先生の寄付を基金として制定された賞。優秀な卒業論文あるいは卒業研究（個人論文に限る）を完成させた英語英文学科の学生に授与。

英語英文学科：LIU MIAO

■ 星野あい賞

第2代学長・星野あい先生の寄付を基金として制定された賞。成績優秀な数学科の学生に授与。

数学科：藤田 京 石田 陽愛 小泉 怜子

■ 藤田たき賞

第4代学長・藤田たき先生の寄付を基金として制定された賞。優秀な論文（英文）を書いた国際関係学科の学生に授与。

国際関係学科：眞砂 衿那

■ 石坂泰三賞

元本学理事長・石坂泰三先生の寄付を基金として制定された賞。英語英文学科：大学院に進学し、かつ成績優秀な学生に授与。

市原 沙弥 岩崎 輝来 岡見 穂香

情報科学科：成績優秀な学生に授与。

竹川 由佳

国際関係学科：優秀な卒業論文を書いた学生に授与。

新舟 真夕

■ 赤松良子賞

本学卒業生で、労働省初代婦人局長として男女雇用機会均等法の制定に尽力された赤松良子氏のご功績をたたえ、優秀な卒業研究プロジェクトを完成させた総合政策学科の学生に授与。

総合政策学科：藤巻 宇衣 永洵 真緒

■ 中根千枝賞

本学卒業生で、女性フィールドワーカーのパイオニアであった中根千枝氏の功績をたたえ、特に優秀なフィールドワーク報告卒業論文を作成した多文化・国際協力学科の学生に授与。

多文化・国際協力学科：藤元 菜々子

学科主催の論文賞

情報科学科

● 卒業論文最優秀賞

「ジグルーチン：健康のための貧乏ゆすりの積極的活用とエンタテインメント化の検討」

磯崎 純沙

● 卒業論文優秀賞

「離散ソボレフ不等式を用いた筋交い問題への応用と考察」

相原 莉子 加邊 美空

「生成AIを活用した動画要約作成による英語学習支援」

長谷川 早紀 羽田野 真央

「文脈を考慮した文検索を用いたプロンプト生成とローカルLLMへの適用」

上田 裕美子

「推理対話におけるマルチエージェントLLMの比較研究：役割と合意形成の影響」

正木 美羽

「美容師と顧客間のコミュニケーション支援アプリケーションの開発と評価ーコミュニケーションギャップの低減を目指してー」

佐藤 夏妃

「身体拡張により遠くの時間は近くなるのか

ー長い腕アバターを用いた空間・時間知覚相互作用の可塑性の検討ー」

角田 亜衣梨 菅沼 紗良

「歩行動作に基づくインタラクティブな音楽変化に対する主体感の評価」

菅野 歩里

総合政策学科

● 卒業研究プロジェクト奨励賞

「避難所における仕切りの高さと女性の安心感の関係ージェンダー視点から見た空間設計の在り方とはー」

政井 優花

「きょうだい構成と性別による地位達成の検証

ー出生順位と性別の交差は教育機会に不平等をもたらすのかー」

高橋 聖

渋谷区との連携

本学と渋谷区は「S-SAP（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー）協定」を締結し、地域の社会的課題を解決するためにさまざまな活動に取り組んでいます。

● 渋谷区と連携した「うめスポひろば」による地域交流の創出

2025年9月13日と9月20日に千駄ヶ谷キャンパスの梅公園にて、渋谷区学びとスポーツ課の事業である「渋谷どこでも運動場プロジェクト」と連携した多世代・地域交流イベント「うめスポひろば」を開催しました。

本企画は、大学の施設を地域の「居場所」として開放し、スポーツや遊びを通じて多世代が繋がり、地域コミュニティの活性化に寄与することを目的に実施されました。

当日は、輪投げやけん玉、フラフープなどを用意し、手ぶらで楽しめる遊び場の提供を行いました。小さな子供から海外の方まで、多様な参加者との交流の場となりました。また、梅五輪プロジェクトの学生による社会連携活動紹介ブースの出展やクイズラリーも実施し、イベントを通じて活動を広く知ってもらえる貴重な機会となりました。

2日間で延べ565名の来場者を迎え、地域住民や千駄ヶ谷を訪れた方々が、運動や学生との交流を楽しむ活気ある光景が広がりました。来場者からは「親子で安心して過ごせる場があって嬉しい」との声も寄せられました。

本イベントは、学生の発案により企画され、学生たちは行政との協働を通じた企画・運営を経験し、自らの活動を社会に還元する実践力を養いました。



● 認知症サポーター養成講座

渋谷区では、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」の養成に取り組んでいます。

第4タームに総合政策学科で開講されている「地域ケア論」（担当：森川美絵教授）の授業内でも、2022年度から「認知症サポーター養成講座」を実施しています。渋谷区認知症地域支援推進員や認知症キャラバン・メイトの方々が講師となり、認知症の症状、支援の方法、接し方について学び、パズルを使ったグループワークを通して理解を深めました。受講者には、渋谷区認知症サポーターカードが授与されました。



第9回津田ヶ谷祭が開催されました（学生報告）

第9回津田ヶ谷祭実行委員会

第9回津田ヶ谷祭を盛会のうちに、無事終了することができました。今年度は「Link to_」というテーマのもと、地域・自治体・企業の皆さまとのつながりをより一層深めることを目標に掲げ、来場者の方々にとって親しみやすく、あたたかみのある大学祭を目指し、運営を行いました。幸いにも晴天に恵まれ、地域の皆さまをはじめ、在学生のご家族や卒業生など多くの方々にご足を運んでいただき、両日合わせて1700人を超える方にご来場いただきました。今年度は、津田ヶ谷祭で初めての試みとして、梅公園にエアアスレチックを設置しました。大学の外からも目を惹く設営となり、親子で楽しんでいる姿も多く見受けられました。また、構内では例年好評の謎解き企画を強化させました。謎解きの全問正解者が参加できるビンゴ大会を新たに開催し、予想よりもはるかに多くの方々にご参加いただきました。来場者アンケートでも満足度の高い企画となり、実際に「とても盛り上がっていた」「来年もビンゴ大会をやってほしい」という回答をいただきました。今後も、津田ヶ谷祭を通じて生まれた多くのご縁を大切にしながら、大学と地域とのつながりをより一層深めていきたいと存じます。あらためて、第9回津田ヶ谷祭の開催にあたり、ご協力を賜りましたすべての皆さまに心より感謝申し上げます。



キャンパス入口のアーチ



初開催のビンゴ大会



梅公園に設置したエアアスレチック

アカデミック・サポート・オフィスについて

本学では、5号館AVライブラリーを改修し、学びに関する相談をワンストップで行う場として、2025年10月1日より「アカデミック・サポート・オフィス」を開室しました。

「アカデミック・サポート・オフィス」には、これまで学内の各地に点在していたライティングセンター機能、インクルーシブ教育支援機能が移転しています。

授業用の機器の貸出し・サポートや、授業等での機器使用中におけるトラブル対応を担うヘルプデスクも、引き続き同室に展開されており、教員・学生ともに足を運びやすい環境づくりを目指しました。

加えて、就職活動などのオンライン面談やウェブテストなど、個人で利用することができる個別ブース、複数人で相談ができるテーブル席やソファ席、自習やグループ学習、セミナー開催などのフレキシブルな使い方ができるアクティブラーニングスペースを設けています。

明るく、広場のように多機能な要素をもつ場所へと生まれ変わった「アカデミック・サポート・オフィス」に、ぜひ足をお運びください。



ウェルネス館が完成しました

2026年3月、本学に新たな心身のサポート拠点として「ウェルネス館」が開館します。このウェルネス館建築は、創立125周年記念事業として、皆さまからのご寄付のもと実現いたしました。ウェルネス館は、主に現在2号館に設置されているウェルネス・センター事務室、医務室、カウンセラーが所属する相談室などの機能を移転し、学生・教職員がより安心して過ごし、気軽に相談できる環境を整えることを目的とした施設です。

また、初代ウェルネス・センター長（旧保健センター長）の村井孝子氏の功績を称えた多目的室「村井記念ルーム」を兼ね備え、授業やセミナー等でも利用することができます。

建物は木造平屋建てで、木の温もりに包まれた、やさしく落ち着いた空間が特徴です。基本計画および設計監理監修は株式会社安井建築設計事務所が担当し、設計・施工は住友林業株式会社手がけています。木造建築ならではの柔らかな佇まいは、訪れる人の緊張を和らげ、自然と心が落ち着く場となることを目指しています。

また、ウェルネス館の建設にあたっては、「つくる過程」も大切にしてきました。建設地で伐採した樹木を活用し、学生や教職員が参加するアートワーク制作やベンチ制作、資源の循環や木に触れる体験を通じて、参加者からは好評をいただきました。さらに、木造建築の建て方や技術を間近で体感できる建方見学会も開催し、完成への期待を共有する機会となりました。

ウェルネス館は、人と人、人と自然をやさしくつなぎ、キャンパスに新たな安心と温もりをもたらす場所として、これからの大学生活を支えています。



ウェルネス館入口



ウェルネス館外観



エントランスホール



在学生・教職員によるアートワーク



村井記念ルーム

津田塾大学へのご支援

創立125周年記念事業募金
ご協力をお願い

本学は、津田梅子の建学の精神に基づき、今日にいたる伝統を受け継ぎつつ「変革を担う女性」の育成を目指して教育、研究の一層の充実発展を図るべく、「創立125周年記念事業募金」を実施しています。本学の教育研究環境は、これまでも同窓生をはじめとする社会の皆さまのご芳志に支えられ、築かれてまいりました。「創立125周年記念事業募金」につきまして、3つの記念事業を推進するため、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

記念事業

1. 国際化のさらなる推進事業

- (1) 奨学金等による海外への学生派遣・留学生受入の支援、国際化イベント等実施
- (2) 海外大学院とのデュアルディグリープログラムの実現
- (3) 新寮建設による留学生を含めた学生支援

2. 女性IT人材育成事業

- (1) 数理・データサイエンス・AI教育の強化
- (2) 理系新学部部の拠点となる校舎（新2号館）の建設

3. 地域連携活動の強化 ウェルネスの拡充事業

- (1) 生涯教育モデルの実現
- (2) 連携推進センター活動と女性キャリア支援
- (3) ウェルネスの拠点となる施設の建設

寄付金募集要項

1. 寄付金目標額 3億円

2. 募集期間 2024年4月1日から2028年3月31日まで

3. 寄付金の種類 (1) 個人の寄付金 1口1万円
(2) 法人の寄付金 1口の金額は特に定めておりません。

4. 申込および払込方法

(1) 金融機関

Webサイト(<https://support.tsuda.ac.jp/method/index.html>)より「寄付申込書」をダウンロードのうえご記入・ご提出(申込)後、振込先銀行口座をお知らせいたします。



(2) クレジットカード

インターネットからお申込みができます。詳細は、Webサイト(<https://kifu.fm/tsuda/form.php>)をご参照ください。



(3) 現金

津田塾大学小平キャンパス経理課窓口にて取扱っています。窓口での現金取扱時間は、平日9:00~11:15、12:15~15:30です。

5. ご寄付をいただいた皆さまへの礼遇について

(1) 銘板への掲載

ご寄付を賜りました方々のご芳名を、新2号館内に設置予定の銘板に永く顕彰させていただきます。また、報告書等では、ご芳名および寄付額を公表させていただく予定です。

(2) 記念品の贈呈

創立125周年記念事業募金の寄付の累計額が30万円以上※に到達された方には、返礼品として創立125周年記念事業募金の顕彰用に企画されたオリジナルの「漆塗りボトル」または「漆塗りタンブラー」を贈呈させていただきます。※2024年4月1日~の累計とさせていただきます。

また、1口以上ご寄付いただいた方にはお礼の品をお送りさせていただきます。詳細は本学Webサイト <https://support.tsuda.ac.jp/projects/125th.html> でお知らせいたします。



ふるさと納税を活用した学校法人支援

本学は、渋谷区「ふるさと納税を活用した学校法人支援」事業団体に指定されています。これにより、ふるさと納税制度を通じて本学へのご支援が可能になるとともに、ご寄付者は、所得税や住民税の控除を受けられます。

2026(令和8)年のご寄付は4月から開始します。

※返礼品はありません。

https://furusato-shibuya.jp/cf_school/



寄付金に対する税制上の優遇措置について

寄付控除

学校法人津田塾大学への寄付金は、所得税、法人税、相続税の税制上の優遇措置が受けられます。
<https://support.tsuda.ac.jp/benefits/tax.html>



遺贈による寄付

遺贈により学校法人津田塾大学へご寄付頂いた財産は、原則として、その遺贈財産は非課税財産となります。
<https://support.tsuda.ac.jp/projects/bequest.html>



2025年度 第1回「相続・遺贈セミナー」を開催しました。



第1回「相続・遺贈セミナー」を2026年1月14日に津田塾大学小平キャンパスにて開催しました。

滑川成美氏(三井住友信託銀行 上級財務コンサルタント)を講師にお迎えし、「今から考える相続対策~あなたの想いを未来に託す~」をテーマに、相続・遺贈の基礎についてご講演いただきました。また、希望者を対象とした個別相談会も実施しました。

当日は、セミナーに22名の方にご参加いただき、参加者からは「基本的な仕組みがわかってよかった」「具体的な事例があってとても身近になった」等のコメントをいただきました。

本学では、専門家を講師に迎え、わかりやすいテーマ・内容で、今後もセミナーを開催する予定です。ご関心のある方は、経営企画課募金管理室までお知らせください。

経営企画課募金管理室 E-mail : bokin@tsuda.ac.jp

寄付者ご芳名 (2025年9月1日から2026年1月31日現在 掲載承諾者のみ)

サポート<津田スピリット>募金 創立125周年記念事業募金

浅野 純子 様
穴沢 素子 様
板垣 絵里 様
板倉 由実 様
伊藤 豪浩 様
伊東 真知子 様
井上 邦子 様
上岡 美保子 様
上原 智子 様
宇田川 史子 様
内田 孝広 様
梅谷 和子 様
漆畑 洋子 様
江頭 真也 様
大崎 千賀子 様
太田 篤二 様
大野 裕子 様
吉朝 加奈 様

落合 明子 様
工藤 美智子 様
菊浦 晶子 様
来住 伸子 様
木村 真夢 様
京極 浩子 様
久野 久美子 様
栗原 政幸 様
幸谷 礼子 様
小南 ゆか 様
今野 由梨 様
霜凍 麻美 様
鈴木 初枝 様
泉保 亮子 様
高田 裕子 様
高橋 久美子 様
高橋 裕子 様
高安 直子 様

鶴田 敏 様
内藤 堅二 様
永野 康子 様
中山 睦子 様
成瀬 智 様
西川 善次 様
西出 郁代 様
仁科 弥生 様
橋本 いづみ 様
馬場 道夫 様
林 史子 様

原則雄 様
板東 久美子 様
樋口 陽子 様
彦 留美子 様
平田 萌 様
平松 範行 様
古谷 孝子 様
馬籠 久美子 様
真野 千佳子 様
宮 裕子 様
宮前 和代 様

桃木 典子 様
山口 順子 様
山崎 奈穂子 様
山田 せき子 様
山寺 路子 様
山内 久明 様
山村 晋 様
山本 裕章 様
湯浅 瑛 様
吉川 沙紀 様

1995年・2005年卒業生同期会 様
1975年卒業50周年同期会一同 様
ラッフルズインベストメント株式会社 代表取締役社長 皆川 勝彦 様

匿名 16名

サポート<津田スピリット>募金

●学修環境整備(小平キャンパス)

柳澤 彰子 様
津田塾からし種の会 様
給食のおばさん 様
匿名 1名

●学修環境整備(千駄ヶ谷キャンパス)

加藤 仁美(佐藤) 様
中西 洋 様

●教育振興資金

石村 園子 様
木内 尚子 様
佐藤 暉 様
津村 留美子 様
吉田 明子 様
広友物産株式会社 様
匿名 6名

●学生支援(留学生派遣)

星野 鋼 様
三國谷 佐知子 様

●学生支援(学外学修・海外活動)

山口 ゆりか 様

●その他

一般社団法人津田塾大学同窓会 様
匿名 7名

創立120周年記念事業募金 寄付者銘板を設置しました

創立120周年記念事業募金(2019年度～2023年度)へご寄付いただきました方への顕彰を目的に、小平キャンパス ハーツホン・ホール(本館)に寄付者銘板を設置しました。

このご寄付により、「女性のキャリア支援/インクルーシブ・リーダーシップ育成」「理系教育強化事業」「国際化推進事業」「『英語の津田』のさらなる強化事業」の4つの記念事業に加え、津田梅子の小袖を修復するなど、数多くの事業を実施することができました。

皆様からの温かいご支援に心より御礼を申し上げます。

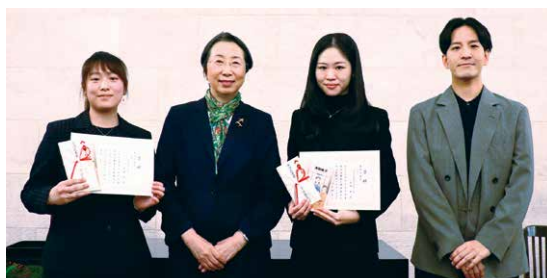
この銘板は、理系新学部の出発点となる校舎が完成次第、移設を予定しております。



市河三喜賞の授与

市河三喜賞は、日本の英語学界の草分け的存在で、本学の理事・評議員として在任された市河三喜氏の寄付を基金として制定されました。英語で書かれた論文、創作、翻訳、エッセイ等を学部、学科、大学院を問わず募集し、優秀な作品に対し授与されます。

2025年12月10日のクリスマス礼拝終了後に、津田梅子記念交流館岡島記念チャペルにて授与式が執り行われました。受賞者には学長から、賞状と副賞の図書カードが贈呈されました。



左より、角田さん(受賞者)、高橋学長、窪田さん(受賞者)、井原講師(選考委員)

●2025年度受賞者

二席 文学研究科後期博士課程 3年 窪田 希 (創作作品“Eclipse”による受賞)

三席 国際関係学科 1年 角田 響 (エッセイ作品“Calling You”--Shine On You Dull Opal--”による受賞)

上野千鶴子ゼミ@津田塾大学が開催されました

2026年1月8日、社会学者の上野千鶴子先生をお迎えし、「上野千鶴子ゼミ@津田塾大学」が開催されました。本企画は、多文化・国際協力学科の木村朗子教授と丸山淳子教授による1年次基礎セミナーの合同授業として実施されたもので、授業は学内向けに公開され、受講生以外にも多くの参加者が集まりました。

1年基礎セミナーで読んだ上野先生の著書をもとに、学生が感じたことや考えたことからテーマを提案し、木村セミナー受講生の司会のもと、参加者によるディスカッションが行われました。

初めに、上野先生の2019年度東大入学式祝辞にある「恵まれた環境を弱者のために使ってほしい」という言葉を起点に、知性や強者とは何かなどについて議論が行われました。上野先生は、上述の祝辞の一節の後には「強がらず、自分の弱さを認め、支え合って生きてください」というメッセージが続くこと、知性とは言葉とエビデンスであり、その積み重ねである学問が弱者を支える力になること、また強者であること自体が問題なのではなく、権力

を正しく使うことが重要である旨を語られました。

次に、女性が重役に就く際に「女性初」と表現されることが多く、個人ではなくカテゴリーとして扱われる現状をテーマに議論が展開されました。上野先生は、理想の社会とはという学生の問いに「見たことはないけど、男とか女とかで差別されない社会」と答えられ、男性の育休取得を制度化したアイスランドの例を挙げ、変化を起こしてきた人がいて、変化を起こした先進国が前例を作っていることを述べられました。

最後に、「伝統的役割を選ぶことは自由か」というテーマについて、専業主婦という選択は自由か社会的圧力が話し合われ、上野先生からは、専業主婦はすでに伝統的役割ではなく特権的な選択になっているとの指摘があり、活発な意見交換のうちに授業は終了し、多角的な視点と新たな気づきが得られた充実した学びの時間となりました。授業後は先生のご著書にサインを求める参加者の長い列ができました。



小平、千駄ヶ谷の両キャンパスでクリスマスツリー点灯式が開催されました

2025年12月2日の5時限目終了後、小平・千駄ヶ谷の両キャンパスにおいて、毎年恒例のクリスマスツリー点灯式を開催しました。点灯の瞬間には多くの学生や教職員が集まり、ツリーが鮮やかに輝くと、多くの歓声とともに会場は一気に温かな光に包まれました。小平キャンパスでは、キッチンカー3台によるホットチョコレートやスイーツ等の提供を行いました。また、津田塾大学放送研究会の司会進行のもと、津田塾プロジェクトマッピングが作成したカウントダウンムービーを投影し、会場は大きな歓声と拍手に包まれました。寒さを忘れるほどの盛り上がりの中、学生たちは写真を撮ったり、楽しそうに談笑したりしながら温かな時間を過ごしていました。千駄ヶ谷キャンパスでは、今年度新たに追加した白のオーナメントにより、より冬らしい色合いのイルミネーションがキャンパスを彩りました。また、連携協定先である千駄ヶ谷大通り商店街振興組合様や、S-SAP（シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー）

協定の一員である「and C」様のご協力により、来場者へレモネードやフレーバーティーといったホットドリンクと、雪を思わせるスノーボールクッキーの提供も行われました。両キャンパスとも寒さの中にも温もりを感じられるイベントとなりました。ご協力くださった皆さまに心より御礼申し上げます。



千駄ヶ谷キャンパスにて



小平キャンパスにて

2025年度クリスマス礼拝 要約

「Be Still, and Know That I am God—静まって、わたしこそ神であることを知れ—」

ヨハネによる福音書 1章1節～5節（新共同訳）

奨励者：キャロル・サック氏（宣教師・音楽サナトロジスト、Lyra Precaria（祈りのたて琴）ディレクター（2006-2018））

クリスマスはイエスの誕生を祝うことが、この季節の目的、中心です。では、どのように祝えばよいのでしょうか？ イエスを最も喜ばせる贈り物は、他者に親切を示すことです。そして私たちが他者に励ましや助けを与えるとき、自分もその人を通して深い喜びという贈り物を得ます。

私はパストラル・ハーブの活動をしており、依頼者のベッドサイドで、神の慈しみと愛の音楽を奏でています。刑務所にも、英語を話す受刑者を訪ね、彼らの話を聴いて祈り、あとは神にお任せすると、後日手紙をくださる方もあり、神が私の心に温かい喜びを返してくださいませ。

このクリスマスに、私たちは希望を失った孤独な人を励まし、病気の人、食べ物や住む場所を必要としている人を助けられるでしょうか？

詩編46編に「静まって、わたしこそ神であることを知れ」というみことばがあります。赤ん坊として来てくださり、十字架に死なれたイエスの愛を知り、私たちが大切に、守り、導いてくださる希望の神を知ることこそが、本当のクリスマスの意味であり、最高の贈り物なのです。



クリスマスコンサート2025が開催されました

2025年12月17日に、「津田塾大学創立125周年記念事業 クリスマスコンサート2025 Koko et Kaoli ～「こどもの時間」から始まる旅～」が開催されました。

今回は、ピアニストの谷川公子さんとギタリストの村治佳織さんのお二人による女性音楽ユニット「Koko et Kaoli（ココ・エ・カオリ）」をお迎えして開催いたしました。

美しい調べがチャペルに響き渡り、素晴らしい時間を過ごすことができました。

お申込者数は定員をはるかに上回り、300名を超える多くのお申し込みをいただき抽選となりました。

ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



ご挨拶 2026年3月31日付で定年退職を迎える教職員よりご挨拶申し上げます

国際関係学科教授
武田 万里子

採用面接を受けるためにはじめて小平キャンパスを訪れた日、「ああ、ここで働きたい」と思いながらみどりのなかを歩いたことを覚えています。2007年に日本国憲法・法女性学の担当教員として着任して以来、玉川上水沿いの道を歩いて通うキャンパスは、四季折々に姿を変える木々や草花に彩られ、いつも元気をくれました。

女性差別のない社会をめざすのであれば、女子大を含む男女別学の教育機関は、常に厳しくその存在意義を問われます。本学に在職することができたことで、本学が、歴代の女性学長のもと、性別にかかわらず運営されていることを、学生のみなさんに見てもらえる大学であることを知ることができました。

毎年、一人ひとり卒業論文を書き上げていく学生のみなさんの、文章を書く力に感銘を受けてきました。卒業後しばらくキャリアを積んでから海外留学を志す卒業生のお話を伺うのはいつも楽しみでした。みなさんとの出会いに心より感謝申し上げます。



総合政策学科教授
大島 美穂

1997年に筑波大学国際総合学類から本学国際関係学科に異動し、29年が経ちました。その前の学生・助手時代を含めると約40年です。その割に津田のカラーに馴染めず礼儀をわきまえない教員で、さらに時々キャンパスで迷子になっていました。

本学のような小規模大学では、教学いずれにおいてもマルチ・タスクが要求され、それが自分を鍛えてくれました。二つの学科での仕事、総合政策学部の設置、新設のライティング、学外学修・キャリアセンター、あるいは学長室での業務など、能力以上の力が要求される中で多くの教職員の方にお世話になりました。さらに、最も私を鍛えてくれたのは、ゼミをはじめとする学生の方々のあくなき好奇心と社会への批判的姿勢でした。研究室を整理していて、自分の専門分野を超えた本の多さに改めて驚きました。国際関係学はもとより、総合政策もインターディシプリナリーな研究姿勢が必要となる結果なのだと思います。皆様に感謝です。



理事会・評議員会開催報告

第347回理事会

2025年9月26日

【審議事項】

1. 2025年度補正予算（案）に関する件
2. 役員等報酬基準に関する件
3. コンプライアンス推進規程改定に関する件
4. 公益通報規程改定に関する件
5. 会計監査人との責任限定契約に関する件
6. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況に関する件
7. 評議員会の招集および議案に関する件

【報告事項】

1. 新学部設置準備状況について
2. ウェルネス教育セミナーハウスの売却について
3. 理事長・代表業務執行理事及び業務執行理事の職務執行報告
4. その他

第209回評議員会

2025年10月24日

【審議事項】

1. 副議長の選任に関する件

【諮問事項】

1. 2025年度補正予算（案）に関する件
2. 学芸学部の名称変更に関する件

【報告事項】

1. 新学部設置準備状況について
2. コンプライアンス推進規程改定について
3. 公益通報規程改定に関する件
4. 会計監査人との責任限定契約について
5. 私立大学ガバナンス・コードの遵守状況について
6. 津田梅子記念会&ホームカミングデー、創立125周年記念式典について
7. 2024年度卒業生の進路について
8. 小平キャンパス建設・改修について（ウェルネス館・新寮・新2号館建設）
9. その他

第348回理事会

2025年10月24日

【審議事項】

1. 2025年度補正予算（案）に関する件
2. 学芸学部の名称変更に関する件

【協議事項】

1. 新学部設置をテーマとした懇談会での意見交換に関する件

【報告事項】

1. 津田梅子記念会&ホームカミングデー、創立125周年記念式典について
2. 職員組織・給与制度・教職員評価制度WG報告
3. その他

第349回理事会

2025年12月19日

【審議事項】

1. 令和7年度人事院勧告に伴う本学教職員の給与改定に関する件
2. 「学校法人津田塾大学内訳表決裁規程」制定の件
3. 「学校法人津田塾大学公印取扱規程」改定の件
4. 新2号館施工業者選定に関する件
5. 学長の専任教員としての任期に関する件

【協議事項】

1. 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく本学の公的研究費管理の現状について

【報告事項】

1. 新学部設置準備状況について
2. 2025年度 研究支援・研究費関係についての啓発・教育の実施状況について
3. 2025年度事業計画中間報告について
4. 理事長・代表業務執行理事及び業務執行理事の職務執行報告
5. その他

受賞おめでとうございます。

●WISS 2025 STORES賞

理学研究科情報科学専攻後期博士課程 1年 **丸山 礼華**
学芸学部情報科学科教授 **栗原 一貴**

受賞研究：競技かるたゲームのインクルーシブな再デザインの提案
(丸山 礼華、築瀬 洋平 (ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社)、北川 リサ (お茶の水女子大学)、栗原 一貴)

●ヒーローズ・リーグ2025 特別賞

理学研究科情報科学専攻後期博士課程 1年 **丸山 礼華**
学芸学部情報科学科教授 **栗原 一貴**

受賞作品：まじかるた - 世界で遊べる競技かるた -
(丸山 礼華、築瀬 洋平 (ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社)、北川 リサ (お茶の水女子大学)、栗原 一貴)

●ヒーローズ・リーグ2025 沖中塾賞 by 沖中塾

理学研究科情報科学専攻修士課程 1年 **景山 矢映乃**
受賞作品：ランダム調味料容器

●ヒーローズ・リーグ2025

Women's Healthcare賞 by TECH WOMAN KANSAI

学芸学部情報科学科 3年 **永井 美輝**

受賞作品：日差しと健康をつなぐクリップ×アブリ
～相棒「ひなた」と紫外線の「見える化」で健康をデザイン～

●WIRED CREATIVE HACK AWARD 2025 特別賞

理学研究科情報科学専攻後期博士課程 1年 **丸山 礼華**
学芸学部情報科学科教授 **栗原 一貴**

受賞作品：まじかるた
(丸山 礼華、築瀬 洋平 (ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン株式会社)、北川 リサ (お茶の水女子大学)、栗原 一貴)

●WIRED CREATIVE HACK AWARD 2025 特別賞

学芸学部情報科学科教授 **栗原 一貴**

受賞作品：栗原式インパクトボタン



<https://www.tsuda.ac.jp/news/2025/1210.html>

●日本数学会関数方程式論分科会 第十七回福原賞

学芸学部数学科教授 **菊池 弘明**

業績題目：ソボレフ臨界指数を含む
非線形シュレディンガー方程式の研究



<https://www.tsuda.ac.jp/news/2025/1223.html>

2025年有名企業400社 実就職率ランキング 全国女子大学で1位になりました

津田塾大学は「2025年有名企業400社実就職率ランキング」において全国女子大学で1位になりました。(有名企業400社への実就職率：21.8%) 2020年から6年連続での、全国女子大学における1位ランクインとなります。

本学では引き続き、学生それぞれが納得いく進路決定をできるよう、支援を続けてまいります。

ランキングの詳細・本学における学生のキャリア支援については、以下のWebサイトをご覧ください。

<https://www.tsuda.ac.jp/news/2026/0106.html>



2025年度第1・2ターム 授業に関するアンケート実施結果

2025年度第1・2タームの授業に関するアンケートを6・7月に実施しました。延べ21,906人の履修者数に対して回答者数は8,187人、回答率は37.4%でした。設問1～12、18～25は、授業が適切に実施されていたかの評価となっており、ほとんどの設問において4点以上と高評価を得る結果となりました。設問13～15、17は、学生が自分自身の受講姿勢を振り返る設問です。昨年度同時期から特に改善した項目は、14授業への取り組み、17授業時間外の学修時間、22学修状況・理解度の把握の3つです。

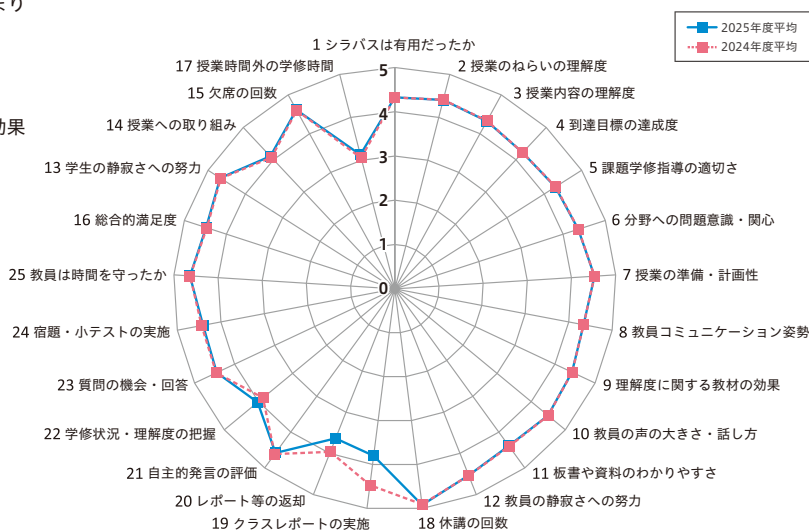
これら結果については各学科・関連委員会等で確認し、問題点の共有・検証・改善を行っており、その取り組み状況を全学教務委員会において確認しています。今後もアンケートを実施し、活用していきます。

授業に関する設問

- 1 この授業を受講する際に、シラバスは有用でしたか。
- 2 各回の授業のねらいは明確に理解できましたか。
- 3 各回の授業の内容は理解できましたか。
- 4 授業で到達目標としている内容が身についたと思いますか。
- 5 課外学修の指導（参考文献の提示、文献の調べ方など）は適切でしたか。
- 6 この授業を受講して、テーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか。
- 7 この授業はよく準備・計画されていたと思いますか。
- 8 教員は受講者とコミュニケーションをとる努力をしていましたか。
- 9 教科書・授業レジュメプリントや参考文献は、講義内容の理解に効果的でしたか。
- 10 教員の声の大きさや話し方は適切でしたか。
- 11 板書やパワーポイント等の資料はわかりやすかったですか。
- 12 教員は静かな環境で受講できるよう努力していましたか。
- 16 総合的に判断してあなたはこの授業に満足しましたか。
- 18 教員は何回ぐらい休講（補講のないもの）をしましたか。
- 19 教員はクラスレポート（口頭発表）を課していますか。
- 20 教員はレポート等の返却（またはその告知）をしていますか。
- 21 教員は自主的発言を重んじ、評価していますか。
- 22 教員は学生一人一人の学修状況、理解の程度を把握していますか。
- 23 教員は質問の機会を与え、適切に答えていますか。
- 24 教員は宿題や小テストを課しましたか。
- 25 教員は授業の時間を守っていましたか。

受講姿勢に対する自己評価

- 13 授業を静かな環境で受講できるよう努力しましたか。
- 14 この授業に積極的に参加し、意見や質問を述べるよう努力しましたか。
- 15 この授業の今までの欠席回数は何回ですか。
- 17 この授業に関して、授業時間外で学修に当たった時間は毎週どれくらいでしたか。
※ 文献調査・資料収集を行った時間も含む



※ 設問別 回答内容

- 問1～14、19～25 [5]: 大いにそう思う [4]: そう思う [3]: どちらともいえない [2]: あまりそう思わない [1]: そう思わない
- 問15 (欠席回数) [5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上
- 問16 (総合満足度) [5]: 満足 [4]: やや満足 [3]: ぶつう [2]: やや不満 [1]: 不満

問17 (授業外学修時間 (週))

- [5]: 3時間以上 [4]: 1-3時間 [3]: 30分-1時間 [2]: 30分未満 [1]: ほとんど行わなかった

問18 (休講回数)

- [5]: 0回 [4]: 1回 [3]: 2回 [2]: 3回 [1]: 4回以上

留学生のFarewell Partyが開催されました

2026年1月20日に、留学生のためのフェアウェルパーティーを開催しました。今回は、10名の交換留学生在が津田塾大学での留学を終えて帰国します。

帰国する交換留学生の所属大学は、インディアナ大学インディアナポリス（アメリカ）1名、淡江大学（台湾）2名、CYセルジー・パリ大学（フランス）2名、メトロポリタン自治大学（メキシコ）1名、スペルマン大学（アメリカ）2名、梨花女子大学（韓国）2名です。

フェアウェルパーティーでは、高橋学長、関国際センター長からのスピーチ、そして津田塾大学での留学を終了する留学生から、日本語や英語で津田塾大学での経験についてのスピーチがありました。





お知らせ

津田梅子記念交流館プログラム

詳細は、津田梅子記念交流館 Web サイト(<https://koryukan.tsuda.ac.jp>)をご覧ください。

翻訳を体験しよう

- 日 程：5月16日、5月30日、6月13日、6月27日、7月11日
隔週土曜日 全5回
- 時 間：13:00～15:00
- 費 用：10,000円 本学在学学生5,000円
- 定 員：20人

《大人のための英語講座》多読のすすめ

- 日 程：5月26日、6月2日、6月9日、6月16日、6月23日
火曜日 全5回
- 時 間：10:30～12:30
- 費 用：10,000円 本学在学学生5,000円
- 定 員：16人

テーマ別 ビートルズ名曲の秘密を音楽理論で徹底解剖

- 日 程：5月18日、6月1日、6月15日、6月29日、7月13日
隔週月曜日 全5回
- 時 間：11:00～12:30
- 費 用：10,000円 本学在学学生5,000円
- 定 員：20人

ジャズと人種

-黒人と白人がどのように関わってジャズの歴史が作られたか-

- 日 程：5月27日、6月10日 水曜日 全2回
- 時 間：11:00～12:30
- 費 用：4,000円 本学在学学生2,000円
- 定 員：20人

翻訳講座 英語圏の児童文学

- 日 程：5月20日、6月3日、6月17日、7月1日、7月15日
隔週水曜日 全5回
- 時 間：10:00～11:30
- 費 用：10,000円 本学在学学生5,000円
- 定 員：12人

浮世絵からお江戸の謎解き

- 日 程：5月21日(木)、5月28日(木)
- 時 間：11:00～12:30
- 費 用：各回2,000円 本学在学学生1,000円
- 定 員：28人

※このプログラムは、連続講座ではありません。各回の内容は異なります。各回毎にお申込みができます。

夏休み子ども英語プログラム～津田塾生とつくる英語劇2026～

- 日 程：7月27日(月)～8月2日(日) 7月30日(木)を除く全6回
- 時 間：10:30～14:30 (お昼休みを挟む)
- 対象学年：小学校5年生～中学校2年生 (2026年度)
- 費 用：12,000円
- 募集人数：15人前後

●場所：

津田塾大学小平キャンパス

●お申込み・お問い合わせ：

経営企画課

(津田梅子記念交流館)

Tel. 042-342-5146



お申込み
フォーム



受付・実施中の
プログラム一覧

公開講座 (総合、女性学)

総合2026

現代のさまざまな問題を取り上げ、学生が主体となり教員と協力して運営に当たる「総合」。2026年度は『活動家宣言〈We act!〉～ギャップから始まる、私たちのアクション～』をテーマに、各回でご活躍の方々にご講演いただきます。

- 講 師：公演予定者については、本学 Web サイトをご参照ください。
- 日 時：授業期間中の毎週木曜日3時限目 (13:00～14:30)
- お申込み：不要。本学正門守衛所にて、住所・氏名等をご記入ください。
- 参加費：無料。18歳以上であれば、どなたでも参加できます。

女性学

- 講 師：【第1ターム】吉朝 加奈氏 (東邦大学准教授)
【第3・第4ターム】大橋 稔氏 (城西大学教授)
- 日 時：【第1ターム】毎週金曜日2時限目 (10:30～12:00)
【第3・第4ターム】毎週月曜日5限目 (16:20～17:50)
- お申込み：本学公式 Web サイトより申請を行ってください。
- 参加費：無料。18歳以上であれば、どなたでも参加できます。
- 受付期間：2026年3月12日(木)～4月6日(月)

●お問い合わせ：教務課 Tel. 042-342-5130

●場 所：小平キャンパス

2026年度オープンキャンパス

詳細は各開催日1ヶ月前頃に本学公式 Web サイトで公開します。

- 小平キャンパス (学芸学部)
- 千駄ヶ谷キャンパス (総合政策学部)
- 2026年6月21日(日)
- 2026年7月5日(日)
- 2026年7月12日(日)
- 2026年8月2日(日)
- 2026年8月8日(土)
- 2027年3月14日(日)
- 2027年3月22日(月・振)

津田塾1日体験 day

9月23日(水) ※事前予約制

高校生・既卒生を対象に、小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパスにて、平常授業の公開等、津田塾を体験できるイベントを予定しています。詳細は、今後本学公式 Web サイトでお知らせします。

●表紙への想い●

連なるアーチの先へ CHIKU

ハーツホン・ホールの正面玄関を挟む回廊を、照明や外光の余韻を残しながら制作しました。まっすぐ伸びた赤い絨毯の向こうへ続く光のグラデーションに、この先へ歩みを進めるイメージを重ねました。



125th Anniversary
1900-2025
2025年、津田塾大学は
創立125周年を迎えました

Tsuda Today No.136 発行日 ● 2026年3月31日 発行 ● 津田塾大学 編集 ● 経営企画課
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1 Tel. 042-342-5113 <https://www.tsuda.ac.jp/>
表紙切り絵 ● CHIKU (種村千明・2000年卒)